

平成 30 年度

第 2 回 北海道におけるデジタルエンタテインメント関連人材育成体制整備実施委員会  
議事録

会議日付：平成 31 年 2 月 26 日（火）

会議時間：17：00～19：20

会議場所：吉田学園情報ビジネス専門学校 5 階 503 教室

議長：橋本 直樹

書記：北村 吉正

出席者：田中 政史（学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長）

田村 禎広（株式会社グループボックスジャパン 常務取締役）

三上 哲（株式会社ハ・ン・ド 執行役員札幌スタジオ GM）

安保 英樹（株式会社アレクト 取締役副社長／CTO）

小林 隆志（exsa 株式会社 札幌スタジオ所長）

小椋 透（株式会社 G-Style CG 制作部 モーションリードデザイナー／広報）

近江 栄治（経済産業省北海道経済産業局 情報・サービス政策課長）

田中 智大（総務省北海道経済産業局 情報通信部情報通信連携推進課長）

上野 修司（北海道経済部産業振興局 産業振興課 主幹）

吉田 泰斗（札幌市経済観光局 国際経済戦略室 IT・クリエイティブ産業担当課）

濱口 伸哉（札幌市経済観光局 国際経済戦略室 IT・クリエイティブ産業担当課）

橋本 直樹（吉田学園情報ビジネス専門学校 副校長）

千葉 一俊（吉田学園情報ビジネス専門学校 学科長）

川東 博之（吉田学園情報ビジネス専門学校 主任）

北村 吉正（吉田学園情報ビジネス専門学校 教員）

代理出席：桐畑 卓也（一般社団法人北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会 事務局）

請負業者：飯塚 正成（有限会社ザ・ライスマウンド 代表）

戸田 隆元（株式会社ポーンデジタル 取締役）

オブザーバ：小野 槇子（三菱総合研究所）

欠席者：佐藤 孝憲（学校法人片柳学園 日本工学院北海道専門学校 事務部 入学広報課）

柏尾 典秀（学校法人栗原学園 北見情報ビジネス専門学校 理事長）

中嶋 知彦（株式会社ロケットスタジオ 取締役 東京支店長）

篠原 たかこ（公益財団法人画像情報教育振興協議会 教育事業部 部長）

辻尾 晋一（カナダ政府 札幌通商事務所 通商代表）

井畑 弘恵（吉田学園情報ビジネス専門学校 事務部）

< 議 案 >

1. 平成 30 年度の事業計画について

(ア) 事業結果、事業内容の情報共有および評価と検証

① 各分科会による事業結果の報告

1. 福岡・神戸視察について

(ア) ゲーム人材育成委員会において実施された福岡視察について、事業報告書を参照しながら報告を行った

(イ) CG 人材育成委員会において実施された神戸視察について、事業報告書を参照しながら報告を行った

(ウ) 質疑応答、参加委員の補足など

① 特になし

2. 教育プログラム開発について

(ア) カリキュラム資料を元に次年度実施予定のゲーム人材育成カリキュラムについて報告

① 分科会での討議の経緯や開発手法について説明

② スキルマップを用いた、ニーズギャップの可視化について説明

③ 新卒者に求められるスキルに絞り込んだことについて解説

(イ) カリキュラム資料を元に次年度実施予定の CG 人材育成カリキュラムについて報告

① スキルマップ検証においてゲームとの差が表れたことを説明

② 学校ごとの教育カリキュラムの差分を埋める施策も盛り込まれたことを説明

(ウ) 質疑応答、参加委員および請負業者の補足など

① 特になし

② 実施委員会による事業結果の報告

1. カナダ視察について

(ア) 本実施委員会において実施されたカナダ視察について、事業報告書を参照しながら報告を行った

(イ) 質疑応答、参加委員の補足など

① 以前バンクーバーに別の視察で訪れたときも、様々な立場の方が FaceToFace で交流できる場として地場産業のために有益に機能していると感じた

② XR 分野について北海道でも産官間の具体的な連携を進める動きがある

2. 人材育成イベント開催について

(ア) 本実施委員会において実施された人材育成イベントについて、事業報告書を参照しながら報告を行った

(イ) 質疑応答、参加委員及び請負業者の補足など

① 会場のキャパシティにより参加可能人数を 150 名と制限していたが、上限を定めなければもっと来場者が増加したと予測している

② 講演した若杉氏は今年の夏に日本へ帰省予定とのことなので、再度実施を検討したい

## 2. 平成 31 年度の事業計画について

### (ア) ゲーム・CG 教育カリキュラムの実証実験について

#### ① ゲーム分野での実証実験について

##### 1. カリキュラムの具体案について、カリキュラム資料を元に説明

(ア) 現在は具体案なので、見直しを含め引き続き実施仕様を委員会でまとめていく

#### ② CG 分野での実証実験について

##### 1. カリキュラムの具体案について、カリキュラム資料を元に説明

(ア) 現在は具体案なので、見直しを含め引き続き実施仕様を委員会でまとめていく

### (イ) 質疑応答、参加委員の補足など

#### ① 講座の開催範囲についてどのように考えているか

##### 1. 委員参加校だけとは考えておらず、どの学校の学生でも参加できるようにする方針で検討している

#### ② 参加校について調整は進めているか

##### 1. 前述の通りどの学校でも参加できるようにするが、そもそも参加可能な学校は限られると推察する

##### 2. 大学生の参加についても、今後検討する

## 3. 事業成果の普及および本事業の継続的かつ発展的に実施していくための自立化について

### (ア) 行政からの支援について

#### ① 行政支援を受けやすい実施形態などがあれば、次年度の協議の中でぜひ教えていただきたい

#### ② それぞれの立場と考え方がある中で議論は紛糾することを予測しているが、意思や目的が合致しているのであれば継続し、発展させていけると考えている

#### ③ 現時点で、行政支援の可能性としてできることはどのようなものがあるか

##### 1. 具体的な支援策は思いついていない

##### 2. カナダの事例のような支援は難しいと考えている

##### 3. ベンチャー企業支援やビジネスコンテストなどを開催しているが北海道独自の動きではない

##### 4. 地方発の取り組みの成功事例を収集しながら模索し、提案することは可能だと考える

##### 5. カナダの事例と地方自治体とは構造が違うため、税制に関しての支援は難しいと考える

##### 6. この分野の育成は重要だと捉えているが、現時点では事業予算を用意していない

##### 7. 次年度においては具体的な支援が可能になるように準備を進めているものもある

##### 8. 支援の内容が幅広く、具体的な案を提示するのが難しいので、人材育成というテーマにフォーカスして考えた方が良く考える

##### 9. IT 産業に対しては説明会や実践的な技術セミナーなどを実施しているので、この業界でも同じように実施したり、会場を提供することも可能ではないかと考えている

##### 10. 個別の企業ではなく、業界全体に対する動きであれば対応がしやすいので、新しい仕組みを作り出すために情報交換をしていくことが重要だと考える

#### ④ 他の業界で行われている、行政の支援手法があれば情報をいただきたい

##### 1. 公共の会議室などを提供する仕組みがあるので、工夫して利用してほしい

##### 2. 他の業界での支援手法がそのまま使えるわけではないとも考えられるので、本事業が求める人材育成においてどのような形が望ましいか、アプローチの仕方を考えていきたい

3. 将来的にどのような姿になることがこの事業の目的なのかを見据えて議論することも良いのではない  
かと思う

#### 4. その他

##### (ア) 次年度の開催について

- ① 未定ではあるが、5月ごろに次年度の活動が開始されると予測するのでお待ちいただきたい

以上